

オーストラリアは移民の国で、多様な民族が共に暮らしています。実際に生活していても、お隣さんはインドネシア人、お向かいレバノン人というように、近所にもいろんな民族の人が住んでいます。

2006年国勢調査によると、オーストラリア以外で生まれた人は総人

口の約24%（約500万人）も占めます。さらに、オーストラリア生まれの人のうち約26%が、オーストラリア以外で生まれた親を持っているというから驚きです。英語が公用語ですが、地域社会で

使われている言語は200カ国語にも及び、英語以外の言語を話している家族も少なくありません。

このような多民族・多文化社会の国ですから、公立学校でもさかんに外国語教育が行われています。オーストラリアの外国語教育で興味深いのは、多様な言語を教えていることです。ビクトリ

ヤ文化があることを、小学校という早い段階から子どもたちに理解してもらうことも大切ではないでしょうか。

娘の通っている小学校では日本語を教えている、6年生までの全校生徒が週に1時間日本語を学習しています。オーストラリアの小学生が日本語を話し、日本の文化について学習していること

多様な言語・文化教育

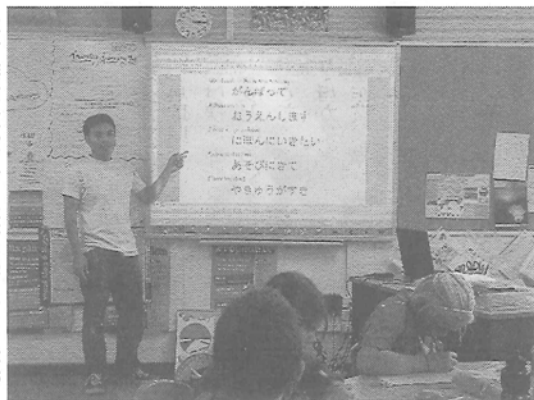
を日本の皆さんは知らないかもしれませんね。

最近では、鳥取ガス（鳥取市）とのスカイプ交流が行われ、実際に日本の子どもたちと日本語で会話する機会が得られました。お互いの顔が見えた時は歓喜の声が上がったそうです。子どもたちは、今まで勉強していた日本語を実際に使える喜びを実感したことでしょう。今後このような交流を通して、オーストラリアと日本で異文化理解の輪が広がっていったら素晴らしいと思います。

（新山直子、メルボルン在住）

（日曜日に掲載）

移民の国の小学校



電子黒板を使って、日本語を学習する児童。日本のプロ野球選手に応援の手紙を書いている。